

たいせつな時間は、写真の中で生きている。

1枚の写真から恩師への熱い思いが蘇る



昭和48年頃、京都で時代劇ドラマ「必殺仕掛人」撮影中の緒形拳を恩師の辰巳柳太郎が訪ね、吉野山に教養したときの写真。
舞台・映画での役者ぶりとは対照的に、リラックスした雰囲気の貴重な1枚。

あれは昭和47、8年頃だったと思う。僕は京都の撮影所にいた。そこへ恩師の辰巳柳太郎先生がふらっと現れて、「おい、吉野の桜を見に行こう」という。それで、急遽吉野へ向かったものの、桜はどこにも咲いていなくて、通りがかりのおばさんに、「桜はまだひと月も先だよ」といわれた。すると先生は、「そうか早かったかあ」といって持参の弁当を広げ、楊枝替わりに折り詰めを蓋をちぎって歯をすいた。先生が、リラックスしてその場の雰囲気を楽しんでいるのが、僕にはすぐくうれしかった。

僕が新国劇に入ったのは、役者になりたかったからではなく、辰巳先生のもとで働きたかったからだ。その存在は、あこがれという言葉以上に大きなものだった。それなのに、僕はあとを継ぐという重圧に耐えかね、新国劇を退団してしまった。先生は猛烈に怒り、数ヶ月後に偶然会ったとき、「おまえ誰や？」といわれ、僕は血の気がひいた。それでも先生のが頭を離れず、知られないように先生の好きなのを渡そうとこっそり家を訪ねた。ところが、帰りに鉢合わせしてしまった。そのとき先生は、目にいっぱい涙を浮かべていた。僕も、先生への思いではち切ればかりだった。

吉野へ行ったのはその暫く後のことだったので、この写真を見る度に、そこに流れる穏やかな空気が僕の胸を熱くし、さまざまなきが蘇る。そして、1枚の写真が越えがたい存在の大きさを、いつまでも僕に感じさせてくれるのだ。



profile

● Ken Ogata
俳優。'37年、東京都生まれ。辰巳柳太郎に憧れ、'58年、新国劇に入団。'65年、NHK大河ドラマ「太閤記」の秀吉役に抜擢される。'68年、新国劇退団。以後、TV・映画に活躍。「鬼畜」でブルーリボン賞主演男優賞、「強襲するは我にあり」で日本アカデミー賞主演男優賞受賞。代表作に「横山節考」「火宅の人」等がある。紫綬褒章受章。

緒形拳

edit by Junko Sazuka

提供：富士写真フイルム株式会社